

日時：平成24年12月13日（木）18：30～20：30
場所：花川南コミュニティセンター 多目的ホール

【 当 日 の 内 容 】

18：30

◆ 開会

18：30～18：35

- ◆ 本日の進め方（事務局／株ドーコン）
- ・グループ別意見交換の進め方

18：35～18：55

- ◆ 地区防災計画（案）について（事務局／株ドーコン）
- ・地区防災計画（案）および防災ガイドの説明

18：45～20：00

- ◆ グループ別意見交換
- ・計画案および防災ガイドについて意見交換
 - ・今後の実践について意見交換

20：05～20：30

- ◆ グループ別意見の発表
- ・各グループ代表者から発表

20：30

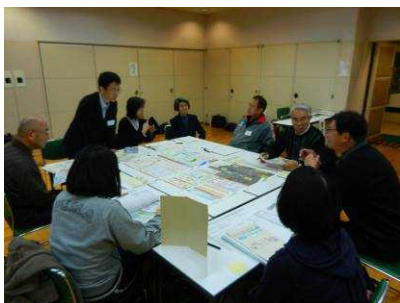
◆ 閉会



◆グループ別意見の概要

Aグループ（6名）

- ・ 停電になると暖房や水も使えない場合があるので、停電になった場合の想定も必要ではないか。
- ・ 避難の際、耳が不自由な方に対しては手を引っ張って連れて行く、または「逃げろ」と合図をすることが必要。
- ・ 防災訓練を兼ねた防災運動会を行っている町内会がある。担架を早く作るリレー等を行っており、良い景品も当たる楽しい訓練である。バケツリレーひとつにしても続けることで技術を向上することができる。ただし、運営がいつも同じメンバーであり、継続的な運営方法を考える必要がある。
- ・ 市として何かのイベントと一緒に、防災訓練やDIG等を実施すると良いのではないか。
- ・ 5年後10年後を考えると小中学校でも防災や命の大切さを学ぶ教育をしっかりとやるべき。
- ・ 防災ガイドは折りたたむ形式ではなく、見やすいサイズしたり、防災カレンダーのように家族がいつでも見ることができるようにすると良いのではないか。



Bグループ（4名）

- ・ 防災ガイドはA3判サイズとし、イラストを多くして文字を少なくする等、読みやすくすると良い。
- ・ 土砂災害よりも液状化など、花川南地区に必要な災害情報があると良い。
- ・ 災害時要援護者支援の中に、知的障害や精神障害についても記載すべき。
- ・ 防災訓練は、多くの参加者を集めることに苦労している現状であり、実際の災害を想定した訓練や要援護者も含めた訓練を、自分たちだけで実施することが難しい状態にある。
- ・ 本当に支援を必要としている人が石狩で安心して暮らしていけるように、要援護者支援制度の申請方法などを解説したガイドを配布すると良いのではないか。
- ・ 町内会の人々が地域で活動しやすくなるように、行政の役割も明確にしてほしい。



Cグループ（6名）

- ・防災ガイドは、貼るにはサイズが大きく、マップ中のマークも細かいので、本当に緊急時に必要な情報に絞り、明確なマップにするように工夫をした方が良い。
- ・防災訓練は、避難所における物資の使用や配布方法など、避難所運営について具体的に訓練していくべきだろう。そして、緊急時に指揮を執るリーダーを養成していかななくてはならない。
- ・地域の人も積極的に訓練に参加していかななくてはならないと思う。



Dグループ：（5名）

- ・防災ガイドはもう少し見やすいものにするべき。まずどこに避難し、どういう時に避難するのかきちんと書いた方が良い。
- ・非常時の持ち出し品や裏面についても、情報の優先順位をつけるべき。
- ・極端ではあるが「停電の日」を設定し、実際に不自由な状態を実際につくるような防災訓練を実施してはどうか。まずはモデル事業として訓練すると良いと思う。
- ・千歳や札幌の防災センターへのツアーなどによって、実際に体験する機会も必要ではないか。
- ・小中学校の生徒が学校だけではなく、休日の自宅での災害対応についても教育する必要がある。



Eグループ：（5名）

- ・各避難所を担当する市職員と施設管理者とのコミュニケーションはきちんとしてほしい。避難所での指示系統がしっかり機能していれば、市民も安心して指示に従うことができると思う。
- ・花川南地区の避難所は札幌市側に集中しているが、小規模な災害であれば、小さな会館も避難所として利用できるのではないか。
- ・要援護者の支援について、高齢者でも理解できるように支援制度の流れをわかりやすくしてほしい。
- ・子供への防災教育や訓練が必要だと思う。例えば小中学校に市民が避難してきた際、子供たちはどのように対応すれば良いか訓練する等、市民と小中学校の合同訓練をした方が良い。
- ・日頃から防災訓練を実施していない町内会もあるため、市から防災訓練を啓発してほしい。そして訓練を実施するためには、市民と行政の連携が大切であり、結果としてそれが市民への防災意識を啓発することになると思う。
- ・防災協定を結んだ企業からどの程度の支援を受けることができるのか明確であれば、自分たちで用意するものを判断することができる。

